



## 高齢化進み、人材減る地域で

### 「患者中心に協力し合う」体制を

医療法人玉昌会  
加治木温泉病院

なつこえ しょうじ  
夏越 祥次 院長

**回復期 慢性期の患者を中心に、透析とリハビリテーションを主軸とした医療を提供してきた加治木温泉病院(鹿児島県始良市)。高齢化率が3割を超え、人口減少も進む始良・伊佐医療圏(始良市、霧島市、伊佐市、湧水町)の医療課題に、「連携」で向き合おうとしている。夏越祥次院長の構想を聞いた。**

—最近のトピックを。

2025年に入り、新たな試みとして、「チーム在宅医療」を始めました。医師、看護師、介護士、リハビリスタッフ、歯科医・歯科衛生士、薬剤師、栄養士、事

務職がチームをつくり、連携して、入院治療から在宅に移行した患者さんを見守る取り組みです。

これまで入院している患者さんに対しては、さまざまな職種が患者さんの元を訪れ、必要な栄養指導や口腔ケア、リハビリなどを提供してきました。同様の状態を、自宅や施設に戻った患者さんに対してもつくり出したいと考えたのです。

私たちが「在宅医療の個別化」と呼ぶこの取り組みは、これまで10人前後の患者さんに対して実施してきました。「リハビリが病院にいる時と同じように受けら

れる」「患者に合った」良い献立を教えてもらった」などと好評です。

患者さんからの評価とは別に、良かったと感じているのが、チーム医療、院内コミュニケーションの円滑化が促進されたこと。これは事前の想定以上のことでした。

患者さんが退院する前や訪問前に、チーム内で患者さんの状態を共有し、どの職種が訪問すべきなのかを相談したり、訪問した際も出先から院内のスタッフに患者さんの状態をオンラインで連絡して相談したり。患者さんを中心に多職種のつながりが深まっています。

—地域連携という観点では。

この地域は当院に限らず、医師、看護師、その他医療者の数が限られ、在宅医療を担う開業医の先生方の高齢化も進んでいます。まずは、院内でチーム在宅医療のチーム数を増やし、人員や運営資金面も含めて軌道に乗ってきたら、地域の病院、診療所にも、協働を呼びかけたいと考えています。

この地域の医療資源や病床の空き状況、電子カルテなどのデータを集約し、必要な医療やケアを効率的・タイムリーに分配する「中央集中管制塔(コマンドセンター)」をつくり、病院診療所、訪問看護・訪問介護ステーションが協力し合って、24時間、在宅で療養する患者さんに対応する。そんな夢も持っています。

—その他、地域との連携を考えている分野は。

当院は、始良・伊佐医療圏の地域リハビリテーション広域支援センターであり、24年10月には、病院機能評価(高度・専門機能)の「高度専門機能リハビリテーション回復期」に認定されました。90人以上のリハビリスタッフを抱え、脳血管障害、整形外科の術後のリハビリを中心に、腎リハビリ、小児リハビリなどを実施。地域におけるリハビリの拠点だと自負しています。

今後、地域と共に強化を進めようとしているのが、

「小児リハビリ」の分野です。これまでも、発達障害のお子さんを対象に、基本的な運動機能や認知・情緒面の発達、言語面の発達などについて、評価やリハビリを行ってきました。

近年、発達障害の認知度が向上し、リハビリや療育の重要性も知られるようになっていきます。しかし、近隣には重症心身障害児のリハビリを担う国立病院機構南九州病院がある以外、この分野を担う医療機関がないのが現状です。

待機期間が長くなっている状況もあり、南九州病院の小児科と当院が連携し、両院のリハビリスタッフも協力し合って役割分担などを検討していきたいと考えています。行政や学校関係にもアプローチして、子どもたちやご家族にとつて、より良い小児リハビリの提供体制を構築していきたいですね。



医療法人玉昌会 加治木温泉病院  
鹿児島県始良市  
加治木町木田4714  
☎0995-62-0001(代表)  
<https://www.kjko-hp.com/>